

# 千代田岳精会

## 会長就任にあたって

小浦場 伯風（ハザマ教場）

この度、〃端無くも〃新会長に就任することになりました。

岳精流日本吟院

# ちよあ

第 74 号

令和 7 年度上期  
千代田岳精会弘報

令和七年指標

# 正道

宗家

新任副会長の松本徳風（用賀教場長）さん、同じく藤村恵風（永山教場長）さんや会員の皆さんとともに「吟を楽しもう！ 楽しむ場所を充実させよう！」をモットーに運営にあたりますのでよろしくお願い致します。（令和七年一月七日幹部連絡会議での挨拶）

## 新たな前進を！

### 千代田岳精会

鈴木 精成

新しい年を皆様お健やかに迎えられることとお慶び申し上げます。私事退任のあとを引き継いでいただいた、小浦場伯風新会長のもと、〃新千代田丸〃の順調な船出を心からお祝い申し上げます。

飯田精鷹初代会長から重責を引き継いで十七年間、皆様の厚いご支援をいただきながら千代田の伝統を守るべく務めることができ、私自身無上の幸福感をいただいております。有難うございました。

思えば、諸先輩方が精魂込めて築き上げてきた「千代田の城」〃築城の歩み〃は、活気と熱意あふれるものでありました。本部流統のかかげるキャンペーンとの呼号はもとより、会独自の積極的な方針を推進してまいりました。この活動と成果が今日の千代田岳精会を確固たる組織として存在あらしめているものと思えます。「組織の千代田」「研修の千代田」は自他ともに許す私たちの誇りであります。この誇りと伝統を未来永劫進めていくべしと願っています。迎えた令和七年、新会長から示

された「千代田岳精会令和7年計画」にありますとおり「吟を楽しもう！ 楽しむ場所を充実させよう！ 40〃へゴー」のスローガンのもと、楽しい、活力ある教場づくりと結集の千代田力を発揮する一年とし、来年の「四十周年」に向かつていくよう願っています。

小浦場会長は学生時代、カヌー競技の選手で、かつては琵琶湖畔を漕覇したとか?! 千代田岳精会飛躍への巧みなパドル（オール）捌きが発揮されることと信じています。会員みなさまの絶大なるご協力をお願い致します。

改めまして、長い間本当に有難うございました。



小浦場新会長



『躍進の千代田、ゴー!』

鈴木前会長



令和七年初藤（多摩川狛江付近）

現代詩

千代田城

大野 恵造

新玉の春なり

二重橋は厳か

広場の玉砂利は浄らか

八文字に開かれて

櫓 今真白にぞ装う

石垣に副う濠の水には

静かに水鳥の浮ぶあり

初東風のいよよ映ゆ

千代田の城の松の緑は

令和7年1月現在	教場長一覧
----------	-------

教場名	教場長名	雅号	備考
丸の内	菟場 直一	龍一	
草加	太田 君江	精翠	
金町	中内 博司	龍博	
鎌倉	阪川 信夫	信山	
桜ヶ丘	中島 義文	義風	
永山	藤村 恵子	恵風	副会長
清流	加藤 雅己	雅風	
東陽町	宮野 幸雄	秀風	
みもぎ世田谷	片山 寿枝	寿風	
銀座	本荘由起子	龍麗	
神楽坂	勝村 忠三	忠風	
熊谷	小林 智子	明風	
鎌ヶ谷	植村 務	精翔	
清水	森坂 雄三	雄風	
石神井	櫻田 謙進	謙風	
表参道	松岡 省一	省山	
神田	中屋 保之	明山	
用賀	松本 清徳	篤風	副会長
志茂	小林 公子	龍紫	
ハザマ	三島 寿	寿風	
我孫子	石田 勝美	匠風	
生田	二反田奉幸	幸風	
新陵	柴田 豊彦	湖風	
みなとみらい	加藤 博善	圭山	
新宿支部	波治 郁代	舞風	
新宿第二	乙訓 稜代	稜山	

金町	中内 龍博さん
永山	大森 美泉さん
清流	大倉 明山さん
東陽町	平居 俊山さん
みもご世田谷	渡辺 弘子さん
神楽坂	江崎 亮山さん
鎌ヶ谷	太田 緑山さん
表参道	福嶋 裕美子さん
神田	粕川 龍紘さん
神田	村井 蓉風さん
神田	山崎 楊風さん
神田	松尾 禮子さん
志茂	小林 龍紫さん
ハザマ	神田 孝さん
ハザマ	滝澤 龍春さん
ハザマ	横山 秀風さん
みなとみらい	安田 恵山さん

## 「年男」の歳を迎えて

金町教場 中内 龍博

平成十七年十二月ハザマ社有会で吟のすばらしさに感激し、即千代田岳精会に入会した。あれから十八年、良くも悪くも続けてこられたのは吟の魅力・良き指導者（故岩崎精慶先生）と良き吟友に巡り会えたことだと思う。

一番の思い出は、「日本吟剣詩舞振興会」主催の全国吟詠コンクールで、平成二十五年、二十八年、四年連続で東日本地区大会に出場できたこと。この時期が私の全盛期と自負している。

令和七年 巳年の皆さん、良い年になりますように!!

一回目の東日本地区大会出場時に他流派の先生から「東日本に一度だけの出場では本物ではありません、数回出場出来て初めて本物ですよ」と言われた。それは天狗になるなということか。

それがきっかけでさらに精進・努力を重ねた結果が連続記録に繋がったと思う。なおコンクールでは今まで誤読・タイムオーバー、絶句は皆無で失格にならなかったことも我が誇りでもある（自信がつくまでの多練習、正確なアクセント、マイクの前に立つと官庁が解け、落ち着く等が要因か）。

八回目（生まれ年を含む）の年男を迎え、現在金町教場長として吟の指導をしているが、宗家の「指導は伝導伝達であり、共に学ぶ姿勢にあり」を motto に明るく楽しい教室作りを目指してこれからも頑張っていきたいと思う。

## 今年の年女です

ハザマ教場 滝澤 龍春

私が詩吟に出会えたのは剣舞の先生のお勧めで入会して、早いもので十八年になります。その間、色々なことが沢山ありました。先輩の方達との別れ、自分の身体の不調、そのたびにくじけそうになりました。でも、詩吟が心の支えとなり感謝して居ります。

これからも細く長く、ゆっくりと続けてゆければと思っています。どうぞご指導の程、よろしくお願い申し上げます。皆さま、健康第一、大切になさって下さいませ。



## 巳年縁起

『漢書』律曆志によると巳は「巳」（い）  
「止む」の意味。草木の成長が極限  
に達した状態を表していると考えられる。  
後に覚え易くするために動物の「蛇」  
が割り当てられた。訓読みの「み」は  
蛇の古語「へみ」に由来する。

相場格言に「辰巳天井、午尻下がり、  
未辛抱、申酉騒ぐ。戌は笑い、亥固ま  
る、子は繁栄、丑はつまずき、寅千里  
を走り、卯は跳ねる」があり、巳年の  
相場は俗に上昇相場といわれる。  
二〇二五年は乙巳（いっし）の年。因  
みに、六四五年の中大兄皇子、中臣鎌  
足らによる蘇我氏族滅を「乙巳の変」  
という。

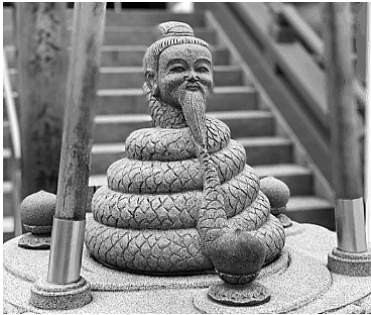
### 「蛇窪神社」

私たちがコンクール等で訪れる品川  
区立荏原文化センターのほど近くに「除  
災招福鎮護 東京の白蛇様 蛇窪神社」  
がある。



### 「寛永寺」

台東区上野にある寛永寺境内の不忍  
池畔天堂には、宇賀神という人面と蛇  
の身体をした像がある。

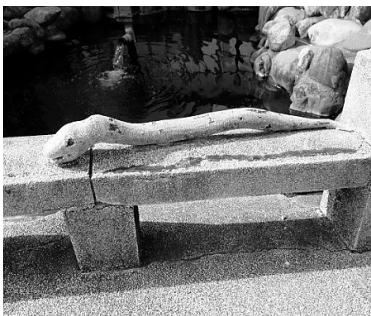


### 「金辯財天」

「こんべんざいてん」と読む。新宿区  
河田町、東京女子医大の敷地内にあり  
「狛犬」ならぬ「狛蛇」さまが出迎えて  
くれる。



立川市羽衣町の境内には弁財天の使  
いの神である白蛇が、橋の欄干の上や  
狛蛇として鎮座している。



# 多士濟々

## 年女の想い

神田教場 松尾 ひろ子

年女と言っても人それぞれ十二年の違いがあるわけで、私にとってはこれで最後の年女でござい、ということになろうと思われる。

来し方を振り返ってみると、なんと有難いことにずっと「戦後」である。世界各地で紛争の最中、様々な苦難の人々を見るにつけ、私にとっての戦後がずっと続いて欲しいと思うのである。

「物心ついてこのかた戦後なり  
いとしくもありいとしくもあり」

（いとしくもありを強調したく  
敢えて重ねました ひろ子）



新年会で「奴さん」を披露

## 「詩禪一味の境地」の高みを求めて

みなとみらい教場 古澤 公章

新年を迎え現役引退から二十七年。

『秋日偶成』にあ

る「閑来無事不従容・・・」の心境に吾身を重ねる今日この頃です。

入会のご縁を

頂き、詩吟の魅力に嵌り、修練に明け暮れた一年でした。詩の暗誦は、性に過ぎたと反省しております。

この間の吟との取り組みが、偶々鈴木

本会長のお目に留まり、今回この紙上で紹介の運びとなりました。光栄の

極みですが、正直、個人的な舞台裏に光が当てられた思いで、聊か戸惑っております。

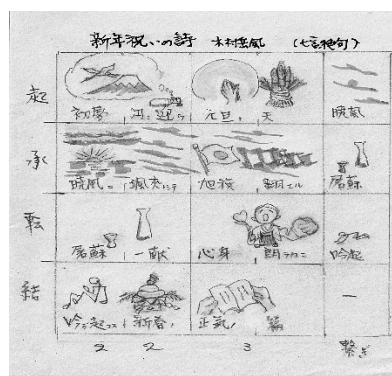
私と吟との繋がりは漢詩です。遡ると七十年前、高校時代に「漢文」の授業の中で漢詩の魅力の虜になりました。



三千年前の中国の『詩経』から、日本

の頼山陽、夏目漱石に至るまで、なお今日も新鮮で心を深く揺すぶられます。

私の吟攻略への思いつきは、ポンチ絵の活用です。作品内容や時代背景と作者の境遇を読み込み、その心境と詩



情を凝縮して、全体をイメージ化し、別途次に、起承転結の流れに沿って風景と情感を駒送

り的に戯画化し、詩句記憶用に仕立てるといふものです。趣味の絵の方は、母方の血筋が下敷きにあるようです。現役時代、会社の部活で「美術部」に入り、退勤後は塑像や裸体のデッサン、週末はスケッチなどに親しみました。師は、社の広告部嘱託で商品デザインやポスターも手

掛けたプロの彫刻家でした。

扱、二年目に入り、私の今年の目標は原点回帰を心して吟道の基本研鑽を積み重ね、日頃の修練に努めることです。  
(一九三九年三月生)



(昨年暮れ、投稿文と共にたくさんのポンチ絵を送って下さったあと、体調を崩されたとお聞きしております。お大事になさってください。編者)

## 私の詩吟事始め

志茂教場 佐竹 洸子

昨年(2023)一月に、縁あって岳精会志茂教場に入会させて頂いてからちょうど二年となった。

見学のつもりで伺った志茂教場で最初に出会ったのが、菅茶山作「冬夜書を読む」であった。

その、情景が目に浮かぶ完璧な漢詩にすっかり魅了されてしまい、その場で入会を決意したのである。

以来いくつもの漢詩に出合ってきた中でこの秋、心に残ったのは、王維作「渭城の朝雨」と杜甫の「岳陽楼に登る」の二つであった。

「渭城の朝雨」は、高校の漢文の時間出会った詩で、熱血漢の教師が講義で西のかた陽関を出ずれば故人無からん無からん故人無からん」と絶唱していた姿が今でも目に浮かぶ。

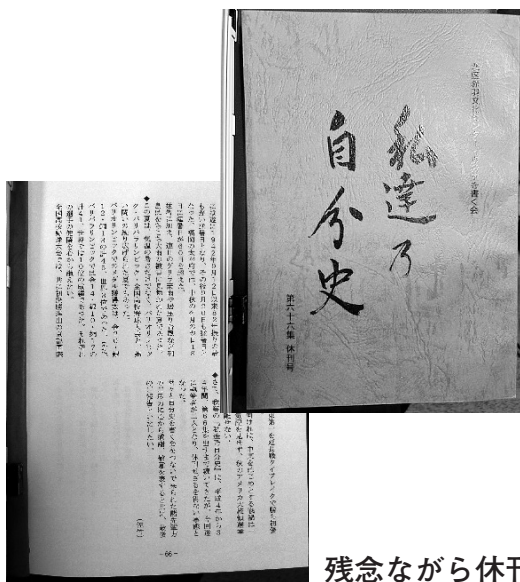
短歌の部では、私の永年の愛唱歌である釈迢空(折口信夫)の「葛の花」

と若山牧水の「幾山河」が、俳句では芭蕉の「古池や」「夏草や」が頭の中で駆け巡ってしまう。

漢詩や短歌は、教場長や先輩方の模範吟を学びつつ楽しんでいっているのだが、悩みは発声である。

気管支が弱いため大声を出すのが苦手で、発声には毎回苦勞している。ひたすら訓練あるのみとは思っているのだが、上達には程遠い現状である。

こんなこともやってみました



残念ながら休刊です

## 吟行会便り

### 五年ぶりの「吟行会」

用賀教場 松本 篤風

二〇二四年十一月二八日、吟行会が五年ぶりに開催されました。

今回は、地下鉄を利用し、田川界隈を尋ねる吟行会」となりました。

集合時間も、少しゆっくりめで……という皆さんの希望で、朝10時45分に都営地下鉄「森下駅」集合としました。

当日、この年一番ともいえる暖かさ、と無風快晴という絶好の吟行会日和に四〇名の会員が参加しました。

一行は先ず

「江東区芭蕉記念館」に向かいます。入り口には、東京では珍しい芭蕉の木が私たちを迎えて



くれました。館内をひと巡りしたあと、記念館裏の墨田川テラスで、この地に因んだ絶句「月夜三又江に舟を泛ぶ」「早に深川を発す」や、俳聖を偲びつつ



「奥の細道（平泉の一節）」と俳句「ふるいけや」「はなのくも」を合吟しました。ここから数分のところに、芭蕉が弟子の河合曾良を伴って奥州に向かう起点となった採茶庵跡があり、芭蕉はここから船で北千住へ、私たちは「奥の細道」《六百里（二、四〇〇km）一五〇日》を想っての吟詠でした。

昼食は、名物「深川めし」を深川めし総本家「みやこ」で舌鼓を打ちました。大きな声での合吟のあとのビールもまた格別です。

腹ごしらえを済ませた一行は、地下鉄を利用して「浅草・浅草寺」を詣で、本堂脇で墨田川所縁の「夜墨水を下る」を吟じました、多くの外国人観光客が珍し気に聴き入っていました。さぞ、ビックリしたことでしょう！

この吟行会も愈々最後の行程になりました。浅草寺本堂前から隅田公園を横切り、「吾妻橋」近くの墨田川テラスで東京スカイツリーとビール会社のモ

ニューメントを背景に締め合い吟を  
しました。

あずまきようはん  
吾妻橋畔を過ぎて感有り

ふじた  
藤田  
とうこ  
東湖

せいねんこ  
青年此の地嘗って遊遊

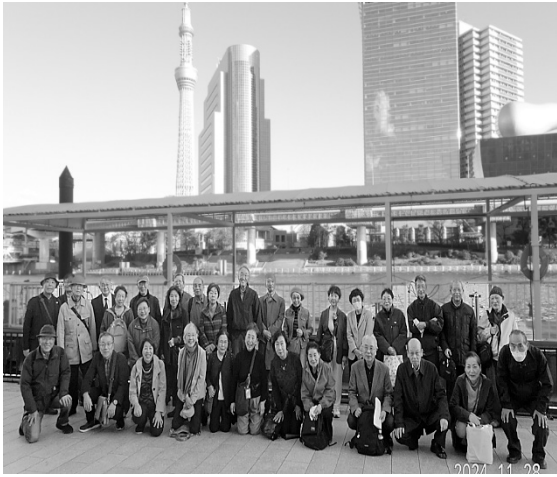
かか  
花下の銀鞍月夜の舟

はくしゆ  
白首の孤囚何の見る所で

まんせん  
満川の風雨驕愁を伴う

以上をもって、本日の「日帰り徒歩

吟行会」は無事終了しました。



皆さん、お疲れの様子もなく笑顔が素敵ですね!!



(手前右) 世話人代表 松本篤風さん

このオブジェ、  
気になりませんか？



黄色の部 分は「聖火 台の炎」で、  
「新世紀に向かって飛躍するアサヒビ  
ールの燃える心」を表わしているそうです。  
決して〃〃〃〃ではありません!!

また、左側のビル（本社ビル）の上  
に見える白いギザギザは、「なみなみと  
ビールが注がれた巨大ジョッキから溢  
れだす泡」だとか。

## 追悼

### 故・鎌田秋風さんを偲んで

丸の内支部教場 蒐場 龍一

昨年八月二十日の夕方、ご子息様から鎌田さんの訃報を知られ、びっくりしました。

三月ごろから、胃の治療で入院を繰り返しており、時々教場へも顔を出しておられたのですが、まさかこんなに早くとは・・・信じられませんでした。

教場では、副教場長として活躍していただき、教本の作成、資料の作成、コンクールの指導・お手伝い等々。

また、千代田岳精会では総務部長の大役を務め、綿密な連絡をしてくださいました。更に港区連でも、常任理事を務め、コンクール大会での弁当係をはじめとして様々な係を引き受けて頑

張っていました。

詩吟との関係では、私とは前の会社と一緒に、社友会の折に私から誘ったところ、やりたいとの事で、即入会してもらいました。教場へも休むことなく熱心に出席され、練習に励んでおられました。

あんなに元気な鎌田さんが・・・いまだに信じられません。

どうか、安らかにお眠りください。心よりご冥福をお祈りいたします。

合掌

### 哀悼の詞

本宮 三香

亡き君の魂呼びかけて弔えば

まぶたに浮かぶありし面影

百歳の人生竟に全からず

哀しむ君が客となって黄泉に到るを

墓前涙を呑んで冥福を祈る

腸は断つ薫香一片の煙

六月二十一日に行われた「岳精流日

本吟院・全国合吟大会」に採点集計係として、体調を崩されていた鎌田さんのお手伝いを申し付かり、集計室で一緒にさせて頂いたのが昨日のように思い出されます。「ここまで娘に送ってもらったんだよ」と、少しはにかむ様に語っておられたのが強く印象に残っております。

千吟会等の研修会では、指導を受けた吟を披露するにあたり、率先して先頭を切って下さり私たち後輩の緊張を解く役割も担っていたいただき感謝しております。

また、朴訥とした語り口調が鎌田さんの人柄そのものだったように思います。

弘報部

中屋 明山

# 千代田岳精会・昇伝審査

日時 令和七年三月二八日（金）

時間 第一部 13時～15時

第二部 15時～17時

会場 イーグル浜松町ビル三階

推薦吟題

初級者層

「画眉鳥」 欧陽 修

「桑乾を渡る」 賈 島

「長安主人の壁に題す」 張 謂

中級者層

右に同じ

上級者層

「馬上偶成」 高杉 晋作

「花下の酔う」 李 商隱

「新生口号」 武田 信玄

「春行して興を寄す」 李 華

## 日本吟剣詩舞振興会 全国吟剣詩舞道大会が 日本武道館に戻ってきます！

令和七年十一月十一日（火）開催予定の『第55回全国吟剣詩舞道大会』が七年ぶりに《日本武道館》で行われることが発表されました。

昭和43年（一九六八年）の第一回大会以来半世紀、『武道館大会』とも呼ばれて親しまれていたこの大会が、東日本大震災やコロナ禍による災禍を乗り越え七年の時を経ての開催です。

過去には、我が岳精流に於いて輝かしい成果を上げてきた大会でもありません。大いに日頃の成果を発揮して実りある時をご一緒に集りたいものです。



### 編集後記

この役を引き受けてから、後悔の連続です。前任者の和田さんには「ちよだ」発行の段取りから構成、割付、印刷所との交渉に至るまで助けて頂きました。また、今回、寄稿に快く応じて下さった皆様にも感謝です。

未熟な仕上がりで、お詫びのしよともありませんが、次号に向けて改善点やご要望をお聞かせいただければ活かしてゆきたいと思っておりますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。

弘報部 中屋 明山